

# 翻訳書に現れた誤訳による日韓対照言語研究の試み ——日本語教育への提言——

今 井 洋 子

## 要 旨

本稿は、『五体不満足 完全版』乙武洋匡著の韓国語訳を用い、そこに出現する誤訳を抽出し、語彙、熟語、文法の3つの点から分析することによって、日韓対照言語研究の一助となることを目指すものである。翻訳書『오체 불만족』진경빈訳は、韓国において小学4年生の『生活の手引き』に一部が掲載されるほどであり、訳者が相当の日本語力を有していると思われるため、そこに現れる誤訳は韓国語母語話者に対する日本語教育に有益な材料を提供するものと考えられる。

誤訳を抽出し考察を試みた結果、語彙に関しては、漢字に惑わされないこと、外来語に関する知識を深めること、情態副詞の用例を豊富に示すこと、文化的背景を解説する必要がある語彙に注意を払うことがわかった。熟語に関しては、ことわざや慣用句はもちろん、連語も丁寧に上げる必要があることが明らかになった。また、文法に関しては、主語を正しく把握した上で、一語ずつ正確に読み進めることが文脈の取り違えを防ぐことになると考えられる。さらに、日韓辞典の記述を充実させる、つまり、単なる語義説明だけでなく、豊富な用例も載せる必要があることもわかった。

キーワード：日本語と韓国語、誤訳、対照言語研究、日本語教育、日韓辞典

## 0. はじめに

韓国語は、言語構造が日本語と非常によく似ている。語順が全く同じで、意味機能が共通する助詞が存在するといった文法面だけではなく、漢字語が語彙の中で重要な部分をなしていることにより、語彙の面でも類似点が多い。学習の初期段階では、韓国語の語順のままで単語を一つずつ置き換えていけば日本語ができあがり、短期間に相当程度の習得が可能となる。とはいえ、異なる言語である以上は相違点もあるわけで、逐語的に置き換えるだけの直訳では正しい日本語が得られない、つまり、誤りが出現することになる。

一般に、誤りが生じる原因には、母語の干渉や既習外国語の影響、学習不足や過剰一般化、単なる思い違いなどが挙げられるが、教授者に学習者の母語と目標言語の知識があれば、ある程度の子測が可能なものもあり、誤用分析の際に役立つことも多い。誤用分析は、歴史的には対照分析の批判のもとに生まれたものの、両者が協同することによって第二言語習得理論の構築に貢献する道筋をつけたことから、習得過程の解明を目的としていることは明らかである。

本稿は、『五体不満足 完全版』乙武洋匡著（講談社）の韓国語訳を用い、そこに出現する誤

訳を、語彙、熟語、文法の3つの点から分析することによって、日韓対照言語研究の一助となることを目指すものである。翻訳本『오체 불만족』진경민訳は、韓国において2001年度小学4年生1学期の『生活の手引き』に一部が掲載されているほどであり、訳者が日本語に熟達していると考えられるだけに、そこに現われる誤訳は日本語研究のみならず、韓国語母語話者に対する日本語教育にも有益な材料を提供するものと考えられる。油谷（2002）の構成に基本的に従い、第1章で誤訳を数的に概観し、第2章では語彙の誤訳を、第3章では熟語の誤訳を、第4章では文法の誤訳を取り上げ、第5章で考察を整理する。

## 1. 誤訳の概観

誤訳総数およびその内訳は表1の通りであるが、「形容詞」には形容動詞、「擬態語」には擬声語も含んでいる。最も多く見られるのが語彙の誤訳であり、全体の3分の2に上るが、その半数が名詞である。以下、項目ごとに検討することにする。

表1 誤訳の内訳

数	語彙					熟語	文法		計
	名詞	形容詞	副詞	擬態語	動詞		主語	文脈	
	30	10	5	5	11	9	5	17	92

## 2. 語彙の誤訳

### 2.1 名詞

#### 2.1.1 固有名詞

油谷（2002）で相当数見受けられた固有名詞の誤読は、今回の資料では人名の「トオル」を「오토早※オトル（150）<sup>1)</sup>」とした1例のみであった。地名がさほど多くないことと、人名の多くがカタカナ表記によるニックネームであったことが影響していると思われる。「トオル」の誤読については単なる不注意によるものと考えられるが、人名が多様であるとはいえ「オトル」という名が存在しない、もしくは極めて特殊であるという知識がなかったことが予測される。

#### 2.1.2 普通名詞

##### 1) うっかりした間違い (lapse) によるもの

相当の実力を有する訳者にしては、うっかりした間違いとしか言いようのない誤訳が14例も見られ、物、色、人、時、数などあらゆる範囲にわたる。

①ふた：道具の入った箱とフタを別々のロッカーにしまって 도구가 든 상자와 산수세트를

- 각각 다른 사물함에 넣어 두고 ※道具が入った箱と「算数セット」<sup>2)</sup>を… (28)
- ②椅子：椅子にのぼった 휠체어에 올라갔다 ※「車椅子」にのぼった (34)
- ③洋服：洋服が手に触れただけで 옷기만 스쳐도 ※「襟」が触れただけで (56)
- ④壁：壁や机を拭くことはできない 창틀이나 책상을 닦을 수는 없었다 ※「窓枠」や机を拭くことはできなかった (64)
- ⑤ダンス：ダンスのようなものに 메스 게임 같은 경우는 ※「マスゲーム」のような場合 (69)
- ⑥バイク：大のバイク好き 자전거를 아주 좋아해서 ※「自転車」がとても好きで (170)
- ⑦紫：紫のドレス에 분홍색 드레스에 ※「ピンク」のドレス에 (233)
- ⑧欧米：欧米では 미국에서 ※「アメリカ」では (260)
- ⑨名刺：名刺을携え 이름표까지 달고 ※「名札」まで下げて (191)
- ⑩一人っ子：一人っ子特有의ワガママ 골목대장 특유의 기질 ※「ガキ大将」特有の氣質 (16)
- ⑪数十分：キャンパス内を数十分歩き回っただけで 캠퍼스에 들어서서 열 발 자국만 걸어도 ※キャンパスに入って「10歩」だけ歩いても (182)
- ⑫100万円単位でお金が動く 100 만 원 단위로 움직이는 규모가 ※「100万ウォン」単位で動く規模가 (191) 正しくは1000万ウォンである。
- ⑬2000円という決して安くはない参加費을 1 만 원이라는 결코 싸지 않은 참가비를 ※「1万ウォン」という決して安くはない参加費을 (225) 正しくは2万ウォンである。
- ⑭数千円を取り出すと 몇 천 원을 꺼내더니 ※「数千ウォン」を取り出すと (240) 正しくは数万ウォンである。

## 2) 語彙の意味を取り違えている誤訳

漢字語、略語、外来語あるいはカタカナ表記語を合わせて15例見られた。また、自国に存在しない事物や事柄に関する翻訳は、豊富な注釈で説明をするか意識をすることになるが、中には全くの誤解による訳も見受けられた。日韓辞典に記載されていないこともその一因と考えられるものの、今回辞典に記載されていなかった語は「酒屋」「クローゼット」の2例にとどまった。

- ①年長組：年長組になってから 유치원 반장으로 뽑히면서 ※幼稚園の「班長」に選ばれてから (17) 年少・年中・年長というシステムを理解していなくても、「年長」が年が上であることを知っていれば容易に翻訳できると思われるが、「長」という漢字にひかれたのか「班長に選ばれて」と勝手な訳にしている。
- ②酒屋：酒屋さんに掛け合っ타 술집에 도움을 청해본다 ※「飲み屋」に掛け合っ타 (113) 「酒屋」を1字ずつ分解、「酒=술」「屋=집」と直訳的に解釈した結果、酒の販売店ではなく「술집=飲み屋」と訳している。ちなみに、韓国で最もよく用いられていると思われ

る『エッセンス日韓辞典』2001年版（以下、日韓辞典と略する）には、酒を作るところ、酒を飲むところという記述はあるものの、売るところという記述はない。辞典の整備が望まれる。

- ③王冠：ビンの王冠だけ 먹다 남은 소주병뿐이잖아 ※飲み残した焼酎の「ビン」だけじゃないか (73) ビール瓶などのブリキ製のふたであることを知らないようであるが、日韓辞典には第3義に載せられている。
- ④時期：この時期はたいへん雪が多く 그 날 따라 웬 눈이 그리도 많이 ※「この日に限って」なぜか雪が多く (46) 「時」という漢字に惑わされたか、「時期」を限定的に解釈し時間の幅をもたせた訳になっていない。
- ⑤先ほど：先ほど息子が学校から帰ってまいりまして 며칠 전에 우리 애가 학교에서 돌아와서는요 ※「何日か前」子どもが… (100) 「先」という漢字にひかれて「先日」と誤読した可能性がある。
- ⑥添乗員：添乗員の派遣などをする 간병인등을 파견하는 ※「看病人」などを派遣する (223) ここは、元は添乗員を派遣していた人材派遣会社が、今では障害者や高齢者の旅を扱うようになったという文脈であるが、障害者や高齢者という語から「看病人」を類推したことも考えられる。
- ⑦セレクション：セレクションをする 신체검사를 받아야 하는 ※「身体検査」を受けなければならない (143) スポーツの得意な選手を選抜する特別な試験を、単なる身体検査と訳している。外来語ではあるが日韓辞典にも記載されており、'선발시험 (選抜試験)' とすべきところである。
- ⑧クローゼット：ベッド, クローゼット, 本棚 침대, 화장실, 책상 ※ベッド, 「トイレ」, 本棚 (174) 「クローゼット」という語は韓国においてまだ一般的ではなく、日韓辞典にも掲載されていないため何を表しているのか理解していない可能性がある。
- ⑨バネ：黒人のバネを持つ男 검은 바람의 사나이 ※黒い「風」の男 (148) 比喩として用いられている「バネ」が足腰の弾力性を指していることが反映されず、単に走力があることだけに終わっている。
- ⑩ザル：ディフェンスなどはザル同然 수미를 보는 자리에서는 꺾다 놓은 보릿자루나 마찬가지였다 ※「借りてきた麦の袋 (皆の中で何も言わずに黙っている)」も同然だ (105) ディフェンスが不十分で穴だらけであるという意ではなく、「借りてきた猫」を意味することになっている。
- ⑪ウソつき：通称「ウソつき校舎」유령 학원으로 불렸다 ※「幽霊」学校と呼ばれていた (169) 新宿校と言いながら一駅隣に位置することをウソつきと称しているのであり、「幽霊学校」では実体がないことを意味してしまう。
- ⑫はしご：一気に「はしご」する学生 단숨에 '순례' 하는 학생 ※一気に「巡礼」する学生

(225) はしご酒の略であることを知らないため「巡礼」と訳しているが、はしご酒は韓国でもよく見られるもので '2차 3차 술 (2次会 3次会)' という語彙をそのまま使えばよい。

⑬切れ者：見るからに切れ者という男 잘 빠진 남자가 ※「とてもスタイルのよい」男 (202) 外見のよさと解釈し、物事を処理する能力に秀でたことの意味になっていない。

⑭不屈き者：「困っていない」とは不屈き者だが 그다지 힘들지 않다고 하면 코웃음을 칠지도 모른다 ※それほど大変じゃないと言うと「せせら笑う」かもしれない (41) 自分は周囲の助けを得て生活しているのに、困っていないと答えることに対するある種の申し訳なさを表現しているところが、周囲から冷笑されるかもしれないことだと訳されている。

⑮嫌がらせ：嫌がらせ다 누가 봐도 혼날 일이었다 ※誰が見ても「ひどく叱られること」だった (120) 度が過ぎたいたづらをして人に叱られるという訳よりも、故意に人の嫌がる行為をする '짓궂다' を使うべきところである。

## 2.2 形容詞・形容動詞

形容詞・形容動詞は、日韓両言語で意味内容が微妙にずれていたり、一対一に対応しないこともあるため翻訳に苦勞する語ではあるが、今回見られた 10 例はいずれも日韓辞典に記載され、その意味内容も一致する語彙であり、特に難解だと思われるものではなかった。ただし、「おめでたい」「うるさい」の 2 つは辞典の第 1 義には記述されていなかったため、多義性をもつことによる困難が生じたことも考えられるが、辞書で確認すれば生じなかった誤りだと言える。

①ややこしい：ややこしい世界가 시시한 세계가 ※「つまらない」世界가 (122) 人間関係の複雑さや煩わしさを表している部分であるため、「つまらない」は誤りと言わざるを得ない。

②初々しい：新入生らしい初々しさなど全く感じられない 어리벉벉한 모습이라곤 찾아볼 수 없는 ※「呆然とした姿」なんて探してみることができない (183) 「初々しい」を表す '풋풋하다' をそのまま使うべきところを完全に誤訳している。

③おめでたい：「短大」= 「女の子がいっぱい」というオメデタイ発想 '여학생들이 많은 곳' 이라는 영큼한 생각으로 ※ … という「腹黒くしたたかな考え」で (212) 滑稽さを含む単純な発想が、狡猾さにすりかわっている。

④うるさい：洋服にはうるさかった 양복에 익숙해져 있다 ※洋服に「慣れている」(244) こだわりがあることを意味しており、端的に '가다롭다' とすべきところである。

⑤もったいない：同時にもったいなくも思った 동지에 마음이 무거워지기도 했다 ※同時に「心が重くなり」もした (228) シンポジウムに関わり刺激を受けた反面、多くの人々の情熱やパワーが無駄になっていることを残念がる場面なので、'아깝다' とすべきであ

る。

- ⑥厳しい：厳しい口調で迫った 조목조목 따졌다 ※「ひとつひとつ」問い詰めた (120) 濡れ衣を着せられた友人になぜ真実を告げないのかと気色ばんで発した言葉が厳しかったのであり、いくつもの問いかけをしたわけではない。
- ⑦生意気：生意気な態度をとる 생떼를 쓰기 시작한다 ※「無理強い」をし始める (17) ガキ大将の典型で親や教師に対して生意気であったという意味であり、誰かに何かを強要しているかのような訳は妥当ではない。
- ⑧朗らか：朗らかな性格で 성격도 화끈해서 ※性格も「まっすぐで小さいことにこだわらない」ので (111) 「朗らか」の語義とは何の関係もない訳になっている。
- ⑨楽だ：決して楽なものではなかった 결코 즐겁지만은 않았다 ※決して「楽しい」だけではなかった (138) 「楽」という漢字にひかれて「楽しい」と思い込んだおそれがある。
- ⑩お茶目：おちゃめで楽しい父親だ 다정하고 재미있는 분이시다 ※「やさしくて」おもしろい父親だ (249) 「やさしい」だけでは不十分で無邪気さやいたずらっぽさも含んだ '장난기가 많다' とするのがふさわしい。

### 2.3 副詞

程度副詞に比べると情態副詞、それも話者の心情を表す情態副詞は、学習者にとって理解に困難を伴う語であり、今回見られた5例のうち4例が情態副詞であった。特に「何だか」「何気なく」など「何」を含んだ副詞は、その種類も多い上にそれぞれが類似した意味を持つため使い分けが難しく、今回の資料でも「何だか」「何となく」の2例見られた。副詞の誤訳の5例はすべて日韓辞典に記載されている語彙であるにもかかわらず、思い違いによるのか、ひどい誤訳になっている。

- ①何だか：何だか彼に悪い気がする 그 친구에게 무척이나 미안했다 ※「ひどく」申し訳なかった (108) 「ひどく」では、申し訳なさを感じる気持ちが過剰に表れてしまっているため、'어쩐지'を用いるべきである。
- ②何となく：何となくなりたかった 기를 쓰고 얻은 직업 ※「何としても」になりたい仕事 (164) 上述の「何だか」と同様、漠然とした思いが強い意気込みを表し、正反対の訳になっている。
- ③よりによって：よりによって英語だなんて 팔자에도 없는 영어라니? ※「思いもよらず」英語だなんて (188) 単なる意外性を述べるだけでは不十分であり、もっとましなものがあるはずなのに、それを選んでしまったことに対する後悔をも表すには、'하필'以外ない。
- ④どうせ：どうせ自分なんてという言葉をお口にする '왜 나만'을 자주 입에 올린다 ※「どうして」自分だけがとしょっちゅう口にする (262) 自分だけが運が悪いということではなく自分を卑下している文脈であるため、'어차피'とすべきである。

- ⑤徐々に：徐々に顔をのぞかせ始める 비죽이 튀어나오기 시작했다 ※「びょこんと」飛び出し始めた (16) 自分のわがままな性格が次第に現れ始めたという文脈であるため、意識せずにそのまま '서서히' とすればよいところを, '비죽이' という物の端が長く突き出ている様子を表す副詞を用いたために、動詞まで誤訳となっている。

## 2.4 擬態語・擬声語

擬態語・擬声語は一般的にその理解も習得もたやすいものではないが、韓国語は日本語と同様、擬態語・擬声語が豊富な言語であり、両言語で一致するものも少なくないため、他言語に比べると韓国語への翻訳は比較的容易であると思われる。しかしながら、今回見られた5例はいずれも、日本語と一対一に対応するものであり、日韓辞典に掲載されているものばかりであった。

- ①ピョンピョン：ピョンピョンピョン 툽 툽 툽 ※「とんとん、こんこん」(42) なわとびをしている様子を表すには、軽快に跳ね上がるさまの '짱충짱충', または、縄が風を切る音の '췁췁' がふさわしい。
- ②ぐったり：グッタリとして体が動かなかった 온몸이 뻣뻣해지더니 움직이기조차 힘들었다 ※全身が「硬直して」動くことさえ辛かった (54) 疲労困憊の状態を指していることを理解していないのか, '눅눅가 되다' を用いていない。
- ③ぼろぼろ：ボロボロになってしまった封筒을 나달나달해준 그 봉투를 ※「ぶらぶら、ひらひらに」なった封筒을 (68) 母音の違いであるが, '너털너털' を用いないことには紙類の傷んだ様子は表せない。
- ④にやにや：思わずニヤニヤしてしまった 순간 내 입꼬리가 자꾸만 귀 옆으로 달려갔다 ※瞬間「口の端が耳の横にまで走った」(70) '히쭈거리다' とすれば、意味ありげに薄笑いを浮かべる意が的確に表現できるところを、比喩のつもりであろうが、わざわざ特殊な表現を用いたことが結果的に誤訳になっている。
- ⑤ホッ：ホッとした 깜짝 놀랐다 ※「非常に驚いた」(109) 「ぎょっとした」と誤解したのか、安堵が驚きとして訳されており, '마음을 놓다' を用いていない。

## 2.5 動詞

同音異義語や多義語はその選択に迷い、誤訳を起こすことが多いと思われるが、今回見られた11例の中には、単なる思い違いや漢字にひかれた誤解、名詞を誤読したための誤訳、意識の域を逸脱したと言わざるを得ないものも多かった。

- ①満開の桜に、やわらかな陽射し 활짝 피어난 벚꽃 위로 다가선 부드러운 햇살 ※満開の桜の上に「近づいた」柔かい陽射し (2) 原文は動詞が省略された文であるが, '내리쬐다' を使って陽射しが「降り注ぐ」と端的に言い表してほしいところである。
- ②苦笑する：苦笑せずにはいられない 쿡쿡거리며 웃음이 나온다 ※「ぷっと」笑いが出る (25) 日本語と見事に対応する '웃웃음을 짓다' を用いればよいところを、吹き出すとい

う意に変えてしまっている。

- ③誘う：ミノルを誘った 미노를 꼬드겼다 ※ミノルを「そそのかした」(74) 「誘う」にはもちろん「そそのかす」という意味もあるが、ここは早朝マラソンを一緒にしないかと持ちかけている場面であるため、悪事を働かせるような「そそのかす」では明らかに誤りである。
- ④悩む：みんな悩んでいるのかな 그들만의 고민을 녹여내고 있을까 ※彼らだけの「悩みを溶かしだして」いるだろうか(125) 意識の域にとどめるにはあまりの抵抗を覚える表現となっている。
- ⑤落ち着く：学年全体が落ち着きをなくし始める 학년 전체가 차부해지기 시작했다 ※学年全体が「落ち着き始める」(132) 「～始める」を見落としたのか、全く反対の意味になっている。
- ⑥動揺する：動揺するトオルの前に 망황하는 오토루 앞에※「さまよう」トオルの前に(150) '당황하다 (動揺する)'を知らないとは考えられないため、勘違いとしか考えられない。
- ⑦呆れる：夢が「プロ野球選手」だというのだから呆れてしまう 꿈이 프로야구 선수였다니 자다가도 웃을 일이다 ※…「どう考えても笑う」ことだ(161), さすがの母も呆れている 억지를 쓰는 아들이 기여운 모양이었다 ※我を張る息子が「かわいい」ようだった(245) どちらの場合も'어이었다'とすればよいところを、「呆れる」を意外で驚いた意を表すと理解していないのか、全く異なる訳になっている。
- ⑧携える：名刺を携えて 이름표까지 달고 ※名札を「下げて」(191) 「名刺」を「名札」と誤解していることによって、動詞まで誤りとなっている。
- ⑨気負う：気負わずにはいられない 나는 슬그머니 기가 질렀다 ※そっと「やる気が失せた」(217) 「負」という漢字にひかれたためか「気持ちが悪くなった」と正反対の訳になっている。
- ⑩書ききれない：ここには書ききれないほどの経験を 이 책에 쓰지 않고는 건딜 수 없을 만큼 많은 경험을 ※ここに「書かずにはいられない」ほどの経験を(236) あまりに多くて十分にし尽くせない意味である「～きれない」が、そうすることを止めることができない意にすりかわっている。
- ⑪すねる：ふくれっ面をしてスネてしまうような 뽀로통한 얼굴로 심통을 부리는 아이였다 ※ふくれっ面をして「意地悪をする」子どもだった(244) 「すねる」はそのまま'미끄러이다'で表現できるところである。



### 3. 熟語の誤訳

本稿では、二つ以上の単語が結合し、単語としての慣用が固定しているものを熟語と定義し(『国語大辞典 言泉』)、連語や慣用句、ことわざもここに含める。熟語は日本語にかなり習熟していなければ運用できないものであり、同様の表現が自国語にない場合は説明的な翻訳にならざるを得ないが、今回はことわざ1例を含め全部で9例見られた。その中には、「泣き言を言う」「顔をのぞかせる」など、通常日本人に対する国語教育では扱われないようなものもあり、これらも連語として丁寧に取り上げる必要があると思われる。

- ①「蓼食う虫も好き好き」:「蓼食う虫も好き好き」と言ってしまうとそれまでだが 그 이상도 이하도 아니었지만 ※「それ以上でもそれ以下でもなかったけれど」(128) 人の好みはさまざまであるという意味を全く理解していないため、‘오이를 거꾸로 먹어도 제 맛(きゅうりを逆さに食べても自分の好み次第)’ということわざを用いることもなく、説明も誤っている。
- ②火がついたかのような:火がついたかのような泣き声とともに 불에 데여 놀란 것처럼 울어대며 ※「火傷をして驚いたように」激しく泣き (2) 赤ちゃんの激しく泣くそのさまを「火がついたかのように」と表すことを理解していない。ちなみに日韓辞典には載っていない。
- ③泣き言を言う:泣き言を言った日のことを思い出す 울음을 터뜨렸던 기억이 난다 ※「わっと泣き出した」ことを思い出す (16) 不幸や不運を嘆いてくどくどと話すことが、実際に泣いたことになってしまっている。日韓辞典には第1義に‘우는 소리(泣き声)’と記述されており、辞書の不備が指摘される。
- ④顔をのぞかせる:徐々に顔をのぞかせ始める 비죽이 튀어나오기 시작했다 ※ぴょこっと「飛び出し」始めた (16) わがままな性格が「徐々に現れ始めた」とすべきところが、突然現れ始めたことになっている。
- ⑤ため息をつく:分厚いステーキを見てため息をついているような感覺 두툼한 스테이크를 보며 만족해하는 착각에 빠져 있을 정도 ※…「満足がっている」錯覚に陥る程度 (79) 非常に分厚く収録語数も桁外れに多い国語辞典を目にして、その素晴らしさに惚れ込み見とれている状態を「満足がっている」と誤訳してしまっている。
- ⑥根性が据わっている:何より根性が据わっているんだ 무엇보다 살아있는 생동감을 그들로부터 얻는다 ※何より「生動感」を彼らから得る (133) ひたむきで少々のことには動じないという意味が、生き生きとした感覚と訳されている。
- ⑦目を奪われる:ボクの目は奪われた 힘이 쑥 빠져 버렸다 ※思わず「力が抜けて」しまった (162) あまりの立派さに見とれるという意味が「奪」という漢字にひかれたためか、「力が奪われた」と解釈されている。

- ⑧輪が広がる：一気に友だちの輪が広がった 친구들이 그룹으로 만들어져 있을 정도였다  
 ※友だちが「グループに分けられる程度」だった (171) 友だちが増えたことを表してはいるものの、「輪」をグループと解した訳は誤りである。
- ⑨嫌気が差す：活動に嫌気が差したこと 활동을 하면서 갑자기 회의가 들었다 ※活動しながら突然「懷疑が生まれた」(190) 「嫌気が差す」にあたる‘싫증이 나다’をそのまま使うべきところであるが、「嫌気」を「けんぎ」と読み「嫌疑」と混同したおそれがある。

## 4. 文法の誤訳

### 4.1 主語の取り違え

韓国語は、前後の文脈から判断できる場合は主語を明示しないという日本語と同様の特徴を持つため、主語が明示されていない文の理解にさほど支障はないものと思われる。しかしながら、明示・非明示にかかわらず、主語を取り違えた訳が5例見受けられた。

- ①事態を把握してもらおうと言うわけだ 사태를 수습한자는 생각에서였다 ※事態を「収拾しよう」という考えからだった (3) 異常があると知らされた我が子との初対面に際し、母親に心の準備をしてもらおうという文脈が、周囲がその状況を解決することになっている。
- ②泣き言を言った日のことを母は印象深く覚えているという 울음을 터뜨렸던 기억이 난다  
 ※わっと泣き出したことを「思い出す」(16) 母の記憶を自分の記憶と誤解している。
- ③自分のことを「王様みたい」と言って、はしゃいでいた 아이들은 ‘왕자님 같다’ 며 추켜세워 주기도 했다 ※子どもたちは「王様みたい」と「おだててくれ」もした (30) 自分自身がはしゃいでいたことが、友だちがおだててくれたことになっている。
- ④「なわとびやろう」と友達に声をかけるまでになる 친구들이 ‘줄넘기 하자’ 며 다가왔으니  
 ※友達がなわとびしようと「近づいてきた」ので (42) 自分から声をかけたことが表されていない。
- ⑤彼自身が滑ってしまわないように 내가 넘어지지 않도록 ※「ボクが」滑らないように (246) 彼と自分とを完全に取違えている。

### 4.2 文脈の取り違え

ここでは主語以外の文脈の取り違えを取り扱う。一文がそれほど長文でもなく、また難解な語彙や表現も多くないため、前後関係を正しく理解した上で一語ずつ丁寧に読み進めていけば、文脈の取り違えは起こりにくいと思われるものの、不正確な訳や、度を過ぎた意識、また思い違いなどによる誤訳が17例も見受けられた。

- ①赤ん坊ながら問題児ぶりはすでにこの頃から発揮していた 될 성싶은 나무는 떡잎부터 알아본다고 했던가 ※「梅檀は双葉より芳しと言ったか」(12) 夜泣きやミルクを飲む量が

少なく母親を困らせたことを問題児と称しているのもあって、何ゆえいづれ大成する子どもであるとのことわざを用いたのか不明である。

- ② どうやらこの頃から変わっていないらしい 어쩌면 이 무렵부터 싹뻗는지도 모른다 ※ どうやらこの頃から「芽生えた」のかもしれない (18) 見栄っ張りな性格は今も当時も変わっていないという意であるのに、その頃に生じたと訳している。
- ③ 自分のクラスに障害を持った子がいれば 예전에는 선생님 반에 장애아가 있을 경우 ※ 「以前は先生のクラスに障害児がいるときは」(26) もしや障害児がクラスにいたらどのように接するかという仮定条件が、過去の実験の経験談になってしまっている。
- ④ 上り始めてすぐ, 5~10分間ぐらい急な斜面が続く 사늘 오르기 시작한 지 10분도 안 돼서 급격한 경사면이 나타났다 ※ 上り始めて「10分もしないうちに急な斜面が現れた」(52) 斜面が現れる時間も, 継続する時間も誤解している。
- ⑤ 淋しさが増してくる 우울증에 빠져들었다 ※ 「憂鬱な気分陥った」(60) 完全看護の病院に入院中, 帰される両親の姿を見たときの寂しさを表しているため, 明らかに「憂鬱さ」ではない。
- ⑥ ボクの世話だけでなく, 子どもの面倒を見るのも得意で 워낙 마음이 넓고 심지가 굳어서 ※ 「何しろ心が広く心根がまっすぐなので」(71) そのまま直訳すべき文をひどく意識しているように思われる。
- ⑦ 「乙武, 一体どうしたんだろう」と思われたらろう ‘야, 오토, 도대체 무슨 일이야?’ 라며 다가와 지분거렸을 것이다 ※ 「…」と「近づいてきて嫌がらせをした」だらう (127) ラブレターをもらって顔が紅潮している場面を指しており, 「友人が嫌がらせをする」というのは誤読も甚だしい。
- ⑧ 制服の第2ボタン, まだ持ってくれているのかな 두 번째 사랑의 여신은 언제쯤 만날 수 있을까… ※ 「2度目の愛の女神はいつごろ会えるだろうか」(131) 制服の第2ボタンとは, 卒業に際し, 好きな女の子に思い出になるようにと渡すものであり, ここでは自分のことをまだ覚えていてくれるかという意である。辞典に記載されていないのはもちろん, 自国にもない文化であるため誤訳もいたしかたないが, 日本語母語話者に尋ねるなどの作業が必要であろう。
- ⑨ 何より根性が据わっているんだ 무엇보다 살아있는 생동감을 그들로부터 얻는다 ※ 何より「生動感を彼らから得る」(133) 「根性が据わる」を誤訳しているだけでなく, 客観的に述べられた彼らの性質・特徴が自分に影響を及ぼしていることになっている。
- ⑩ とてもではないが私立高校にかなわない 사립고등학교 가운데 우리를 누를 팀이 없을 정도였다 ※ 「私立高校の中でボクらを押しえつけないチームはない」程だった (143) 私立高校がいかに強いかを表しているのに, 正反対に自分たちが強いことを示すことになっている。

- ⑪登場する桜の木を、ほとんどひとりで完成させた 벗나무를 떠받치고 있는 역을 혼자서 해냈다 ※桜の木を「支えている役を」一人でやり遂げた (152) 演劇大会での大道具である桜の木を作り上げたという意であって、桜の木を支える役柄ではない。
- ⑫さすがに日本人でなくなることには抵抗を感じた 일본인은 미국 대통령이 될 수 없다는 걸 알고 상당한 저항감을 느꼈다 ※「日本人は米大統領になれないことを知ってかなりの抵抗を覚えた」(162) 米大統領になるためには米国籍が必要であると知り、日本国籍を捨てることに抵抗を感じたのであって、大統領になれないことに対して感じたのではない。
- ⑬悔しさを乗り越えて悲しい気持ちにすらなった 약이 오르다 못해 속이 부글부글 끓어 올랐다 ※腹立ちのあまり「腸が煮えくり返った」(174) 模試結果を見て、自分の実力のなさを思い知ったときの悔しさを乗り越えた情けなさが、「激しい怒り」に変わってしまっている。
- ⑭哲学者のような難しいことまでは考えなかったが 철학적이고 어려운 문제는 질색이었던 내가 ※哲学的で難しい問題は「うんざりしていた」ボクが (194) 「人間はなぜ生きているのか」というようなことまでは考えなかったにせよ、自分はどのように生きたいと思っているのかを考えるよい機会になったという文脈が否定的に捉えられている。
- ⑮メガネの掛け方・外し方に,カッコイイもカッコ悪いもないだろう 안경 벗은 내 모습이 이상하지는 안겠지 ※「メガネをはずしたボクの姿は変じゃないだろう」(214) 原文を丁寧に読んでいないのか、適当な訳ですませている。
- ⑯「いいんだよ」‘하지만 난 형이 좋아요’ ※「でもボクお兄ちゃんが「いいよ」」(218) 自分の姿が子どもたちの好奇的となる中、一人の子どもが「ぼくらと変わりのない人なんだ。」「いろんな人がいていいんだ。」という趣旨で発した言葉である。「いい」という語のもつ多義性のために生じた誤訳であるが、彼に対する好き嫌いの判断としての訳は妥当ではない。
- ⑰「お父さん, お母さん」ではなく「父, 母」と呼ぶ ‘아빠, 엄마’ 라고 부른다 ※「お父さん, お母さん」と呼ぶ (249) 元来、呼称ではない「父」「母」を使っているところのおもしろさが表現されていない。

## 5. まとめ

以上、翻訳書に現れた誤訳を抽出し考察を試みた。その結果、語彙に関しては、漢字に惑わされないこと、いわゆる多義語の意味選択を正確に行うこと、外来語に関する知識を深めること、情態副詞や擬態語・擬声語の用例を豊富に示すこと、文化的背景を解説する必要がある語彙に注意を払うことがわかった。特に漢字語については、漢字1字に着目しその意味を限定的

に解釈したための誤訳や、1字ずつ分解、直訳したことによる誤りが目立った。韓国は漢字圏に属するとはいえ、日常的に漢字に触れることがほとんどない現在、漢字にさほど習熟しているとは言い難いこともあり、非漢字圏学習者とは異なる方法での漢字・漢語指導が必要と思われる。

熟語に関しては、ことわざや慣用句はもちろんのこと、通常は国語教育で扱われない連語までも丁寧に取り上げる必要があることが明らかになった。また、文法に関しては、主語の明示・非明示に関わらず、主語を正しく把握した上で、一語ずつ正確に読み進めることが文脈の取り違えを防ぐことになると考えられる。さらに、辞典の記述を充実させる、つまり、取り上げられていない語義を補うことはもちろん、単なる語義説明にとどまらず豊富な用例も載せ、可能ならば文化的な解説のコラムなども用意することが望ましいと思われる。

通常、対照言語研究においては、両言語の異同の存在を一般化できるだけの十分な用例が必要とされるため、今回のように1作品の分析だけで論じられるものではない。しかしながら、今回明らかになった結果の一部は、油谷(2002)で用いられた『毎日が日曜日』城山三郎著、油谷(2003)の『金閣寺』三島由紀夫著の韓国語訳において得られた考察と共通するところが多い。すなわち、同音異義語の明確な区別(本稿で言うところの多義語の意味選択)、文化的背景を有する語彙の解説、通常の国語教育では扱われない慣用句の抽出、および、豊富な用例も載せた辞書の編纂の必要性がそれである。資料の数がまだ少ないため仮説の域を出ないが、翻訳書の誤訳に見られる一定の傾向を示唆するものと考えられるかもしれない。

なお、補足的なことであるが、今回の誤訳抽出の結果、誤りの出現する箇所には偏りが見られたことを付け加えておく。原書は262ページ、誤訳総数は92であり、単純計算すると誤訳出現割合は約3ページに1つとなる。ところが、10～20ページの間には誤りが全くない箇所がある一方で、1ページに最大5つの誤りがあったり、数ページにわたって誤訳が続いたりすることもあった。詳細な分析を行うに至っていないため推測でしかないが、この偏りは、日本語力に差のある複数の訳者の存在の可能性を示しているように思われる。今後の翻訳書における誤訳抽出、分析の際には十分に考慮すべき点となるであろう。

今後は、さらに詳しい観点からの分析および考察に加え、小説や評論など、他のジャンルも検討していく予定である。

## 注

- 1) 用例末にある( )内の数字は、原書のページ数をさす。
- 2) ※に続く文は韓国語版を日本語に訳したもので、誤訳部分を「」で表す。

## 参考文献

- 垣田直巳(1983)『英語の誤答分析』大修館書店  
金仁炫(2001)『韓・日語の対照言語学的研究』제이앤씨

- 金仁炫 (2004) 『韓・日語の対照研究と日本語教育』 語文学社  
 国立国語研究所 (1997) 『日本語と外国語との対照研究Ⅸ 日本語と朝鮮語 (下)』 くろしお出版  
 国立国語研究所 (2002) 『日本語と外国語との対照研究Ⅹ 対照研究と日本語教育』 くろしお出版  
 迫田久美子 (2002) 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』 アルク  
 田窪行則 (1987) 「誤用分析 1-7」 『日本語学』 6-4,5,6,7,8,9,10 明治書院  
 寺村秀夫他編 (1982) 『講座日本語学 10 外国語との対照Ⅰ』 明治書院  
 深見兼孝 (2006) 「日本語と韓国語」 縫部義憲監修, 多和田真一郎編 『講座日本語教育学第 6 巻言語の体系と構造』 スリーエーネットワーク  
 松本 隆 (2008) 『にほんご café 韓国語から見えてくる日本語～韓流日本語鍛錬法～』 スリーエーネットワーク  
 森田芳夫 (1983) 『韓国学生の日本語学習에 있어서의 誤用例』 誠信女子大学校出版部  
 森田良行 (1985) 『誤用文の分析と研究—日本語学への提言—』 明治書院  
 森山 新 (2000) 『認知と第二言語習得』 도서출판계명  
 油谷幸利 (2002) 「誤訳に基づく日韓対照研究」 『言語文化』 5-1 同志社大学言語文化学会  
 油谷幸利 (2003) 「誤訳に基づく日韓対照研究< 2 >」 『言語文化』 6-2 同志社大学言語文化学会  
 油谷幸利 (2005) 『日韓対照言語学入門』 白帝社  
 吉川武時 (1982) 「外国人の日本語誤用分析 1-6」 『日本語学』 1-11,12;2-1,2,3,4 明治書院

#### 資料

- 乙武洋匡 (2001) 『五体不満足 完全版』 講談社  
 진경빈 (2004) 『오체 불만족』 창해

## An attempt to a Japanese-Korean Contrastive Study by the Analysis of the Mistranslation in the Translated Version —A proposal to teaching Japanese as a foreign language—

Yoko IMAI

#### abstract

It aims as that this paper serves as an aid of Japanese-Korean contrastive study by extracting the mistranslation which appears there using the Korean translation of "Gotai Fumanzoku", and analyzing from a vocabulary, an idiom, and three points of grammar. Since the translator is proficient in Japanese, the mistranslation which appears there will provide the Japanese language education to Koreans with a useful material. Therefore the mistranslation which appeared in the translated version was extracted and consideration was tried.

As a result, about the vocabulary, it became clear that it is necessary not being confused by the Chinese character, getting to know better about a foreign word, that an adverbial example is shown abundantly, and to pay attention to the vocabulary which requires explanation of a cultural background. About the idiom it became clear that it is necessary to also take up a collocation carefully not to mention a proverb and an idiomatic phrase. Moreover, it is thought that reading one word at a time correctly when the subject has been correctly grasped about grammar will prevent misunderstanding of the context. Furthermore, it also turned out that it is necessary to enrich description of a Japanese-Korean dictionary that is, and not only mere meaning-of-a-word explanation but abundant examples need to carry it.

**Keywords** : Japanese and Korean, mistranslation, contrastive study, teaching Japanese as a foreign language, Japanese-Korean dictionary